

THE ROKKOU

六 甲

第43号 (第3後方支援連隊広報紙)



- | | | | |
|-----|------------------|-----|------------------|
| 1 p | 東日本大震災災害派遣活動 (1) | 5 p | 新隊員後期入隊式 (需品・衛生) |
| 2 p | 東日本大震災災害派遣活動 (2) | 6 p | #1連隊訓練検閲 (衛生隊) |
| 3 p | 災害派遣激励及び視察 | 7 p | ハイチ派遣国際救援隊帰国 |
| 4 p | OB定期総会 | 8 p | 納涼行事 |

『表紙：衛生隊訓練検閲 (東富士演習場にて)』

東日本大震災災害派遣活動（1）

1 / 8

平成23年3月15日から宮城県南部に派遣されていた第3生活支援隊の第1次隊が、約40日間の災害派遣活動を終え、4月25日に第2次隊と交代し、4月27日に無事、千僧駐屯地に到着。

生活支援隊長として第1次隊を率いた連隊長は、師団長に現地の活動状況を報告した。

第2次隊以降も宮城県南部を中心に活動を続け、平成23年7月3日に支援を終了し、7月7日に第3師団の全隊員が帰隊、派遣終了となった。



災害派遣第1次隊帰隊



無事に駐屯地へ到着



師団長に帰隊報告する連隊長



連隊長に激励金を渡すOB会会長



宮城県へ出発前の命令下達（第3次隊）



災害派遣第3次隊出発

東日本大震災災害派遣活動（2）

2/8

第3生活支援隊第2次隊派遣以降は、宮城県南部生活支援隊、さらに中部方面入浴支援隊として活動を行ってきましたが、日々、復興が進むにつれ、入浴利用者も少なくなりました。利用者が減るということは寂しい反面、被災地の生活基盤が整ってきたということなので喜ばしくも感じました。この間の、JTF司令官(災害統合任務部隊長)からの激励、著名人からの激励、なによりも被災者からの感謝の言葉や手紙で、元気付けられた隊員は最後まで被災地のために任務を遂行することができました。



阪神球団の選手から激励を受ける



湯の花を入れて温泉フェアを開催



災害統合任務部隊長(現:陸上幕僚長)の君塚陸将から激励を受ける隊員



子供からもらった感謝の手紙



入浴所【六甲の湯】を見学に来た園児



柴田町長から感謝の品を受け取る

災害派遣激励及び視察

平成23年5月26日(日)から28日(火)までの間、連隊長が災害派遣部隊の激励を兼ねて、被災地の状況を視察した。第1次隊で担当していた搜索地域や入浴所の様子を確認した後、船岡駐屯地内にある支援隊CPにて状況報告を受けた。搜索地域は当初より瓦礫の撤去が進み、入浴所は貴重品を入れるロッカーや靴箱等が設置されており、撤去作業の進捗や物資の流通を確認した。また、午後から気仙沼の被害状況を視察。震災から3ヶ月以上経過していたが、復旧作業は難航しており、漁港では、魚が腐敗した悪臭が漂っている状況でした。



貴重品ロッカーや靴箱が増えた



状況報告を受ける連隊長



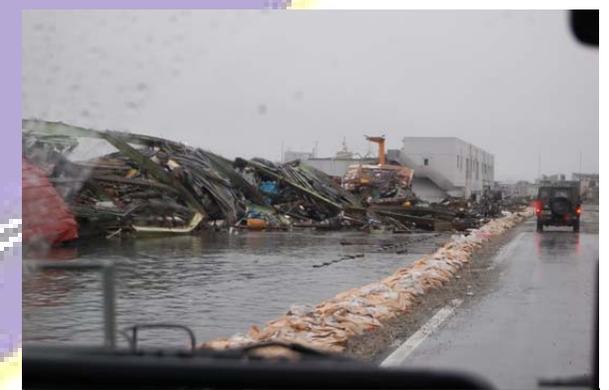
お礼の手紙が多数ありました



気仙沼の様子(巨大船も陸に！)



まだまだ復興に時間を要する



大打撃の気仙沼港

OB定期総会

4/8

4月24日、千僧駐屯地において、「第19回連隊OB会定期総会」が実施されました。この日は、平素から支援していただいているOB会員42名が参加。総会当初、東日本大震災で被災された方々に対して黙祷が行われ、副連隊長から、災害派遣活動中の部隊の近況を報告された後、定期総会が行われました。総会では、平成23年度事業計画、運営方針等を議題に話し合われました。また、会食時には、懐かしい戦友と昔話に花が咲き、時折大声で笑う様子も伺えました。



震災で亡くなられた方々に対し黙祷



新OB会会長 吉田 菊次 様



副連隊長の挨拶



災害派遣の
写真パネル展示



会食



新OB会役員での記念写真

新隊員後期入隊式(需品・衛生)

5/8

平成23年7月4日(月)、千僧駐屯地体育館において、平成23年度4月新隊員特技課程及び第4期一般陸曹候補生新隊員後期課程入隊式が行われた。需品科と衛生科の隊員の代表がそれぞれ連隊長に申告し、需品科13名・衛生科23名の新隊員が後期教育に入隊した。会食では連隊長をはじめ、OB会会長・各OB会顧問からお祝いの言葉をいただき、各新隊員代表が抱負を述べた。



式辞を述べる連隊長



吉田OB会会長の祝辞



需品科隊員



衛生科隊員



抱負を述べる新隊員



会食風景

1 連隊訓練検閲 (衛生隊)

6/8

平成23年7月8日(金)から12日(火)までの間、初夏の東富士演習場にて、衛生隊訓練検閲を実施した。夜間の車両行進から始まった検閲は、衛生隊長(藤田2佐)を核心とし、多種多様な状況中、各隊員は冷静に対処し、第一線で負傷した患者を速やかに回収・搬送・処置等を行った。なかでも、ガスの状況において防護マスクを装面したままの患者搬送は過酷を極めたが、決して患者を見捨てず、患者に対しても防護マスクを装面させる等、保護に努めた。まさに『骨肉の至情と挺身奉仕の精神』に徹し、任務を遂行しようとした衛生科精神を見せつけた検閲となった。



受閲準備完了の報告をする
衛生隊長



作戦会議の様子(衛生隊CP内)



次々に運び込まれる患者を
任務分担して処置する治療隊員



患者に防護マスクを装面



装面したままの患者搬送

ハイチ派遣国際救援隊帰国

7/8

今年2月より派遣されていたハイチ派遣国際救援隊(第4次要員)の第1波が8月10日(水)に、第2波が8月30日(火)に無事帰国し、8月31日(水)に千僧駐屯地において帰国行事が行われた。

約6ヶ月間の任務を終え、連隊の隊員40名が無事に日本の土を踏み、連隊長をはじめとする連隊隊員及び何より帰りを心待ちにしていた家族と久しぶりの対面を果たした。



第1波関西空港に無事到着！



第2波関西空港に無事到着！



久々の家族との対面に笑顔がこぼれる



派遣隊員に労いの言葉をかける



連隊長と補給隊長と懇談する隊員



駐屯地での出迎え行事

千僧駐屯地納涼行事

8/8

平成23年8月10日(水)・11日(木)の2日間、千僧駐屯地において『千僧盆踊り大会』が行われた。連隊は、各部隊から売店を出店し、美味しい食べ物の提供に努め、子供向けの催し物をする等、来場者を楽しませた。また、初日に行われた盆踊りコンクールでは、各部隊趣向をこらした踊りを披露し、会場を盛り上げ、衛生隊新教チームが最高の賞となる伊丹市長賞を受賞しました。



毎年恒例の1整大の『1整焼き』



景品に群がる子ども達



トウモロコシを焼く輸送隊



被災者救援のための募金活動



OB会役員の方も多数来隊



駐屯地司令との記念撮影